公民時報

発行所
福岡県田川郡
方城町公民館
（通巻48号）
印刷所
冷牟田印刷合資会社

昭和31年8月1日

やま　たかく
そら　たかく
うつくしい
わが村よ

きょうからは
〝町〟となる
木々　しげり
いね　みのり
店　さかえ
石炭（いし）　いでよ
方城町
われらが町
のびゆけよ
われらが町

町制の施行に当って

方城町長　倉石文夫

きょう、昭和三十一年八月一日を以て、伝統ある私どもの村は、方城町として、新しい第一歩を踏みだすことになりました。町民の皆さんと共に、心からお祝い申し上げる次第です。

かえりみますに、明治二十二年、当時の伊方村・弁城村・畑村の三ケ村が合併され、方城村が誕生し、初代早川村長が就任されてから十一代目、この間実に六十有六年の歳月を経ているのであります。

この年月の間に払われた、多くの先輩のご努力は、まったく筆舌に尽くすことはできないほどであります。

原野を開き、堤を築き、道をつけ、橋をかけ、さらに学校を建てこの方城の、一つとして、先輩の汗と油の結晶でないものはないのであります。

栄ある町制施行の日に当って、町民の皆さんと共に、思いも遠く昔を偲び、襟を正し、以て幾多先輩諸賢の御労苦に、心からなる感謝の誠を捧げるものであります。

この方城の、地下に横たわる石炭、地上に立ち並ぶ社宅の列、春秋、黄金の波を打つ沃土、そして、麓ひしめく商店街。「大、方城町」の繁栄を永久に望み、大いに奮励努力致そうではありませんか。

手近な例を取りますと、たとえばタバコ消費税です。町外でタバコを買わず、みんながその気になって、町内の店でタバコを買うならば、これだけでも、今までの村民税にまさる、町の収入源となるのであります。

私どもの代に、私どもの努力で町の産業・経済の基礎を確立し、立派に暮していけるように、作りあげておきたいものです。

現在大いに力こぶを入れております、造林の事業も、十年、二十年の後には、優に数億円の富となるでしょう。のみならず、大水害や大旱魃から、町や私どもを守ってくれることは必定です。

「木を植える」ことこそ、現在いちばん大切で、いちばん根本的な、効果のある〝町づくり〟の事業であります。これからくる、方城町の町民の恩恵は、直接・間接、まことに図り知れないほど大きいのであります。

このほか、高冷地試験場の誘致や、西鉄の電車、バスの導入など大小各種の計画を進めつつあります。

この様な、産業経済の確立、発展と相まってこそ、はじめて、真に教育・文化・芸術・道徳の振興が、期待されうるのであります。

「町づくり」と「家づくり」の足を、一歩一歩踏みだし、今日よりも明日を豊かに、明日よりも、明後日は明るく楽しく、手に手を取って進んで行こうではありませんか。

この佳き日に当って、皆さん方に、まだまだ申し上げたい気持で一杯でございますが、皆さんの御健康と御発展とを祈って、ご挨拶にかえる次第でございます。

歴代村長芳名

初代　早川三郎
就任　明治22・5・25
退任　同　26・5・24

一代　早川龍蔵
就任　明治26・5・26
退任　同　28・4・1

三代　皆川古一郎
就任　明治28・5・29
退任　同　29・5・25

四代　早川三郎
就任　明治29・7・15
退任　同　37・7・27

五代　田中也蔵
就任　明治37・8・11
退任　大正2・1・25

六代　日高力蔵
就任　大正2・2・19
退任　昭和4・2・14

七代　松井小吉
就任　昭和4・3・6
退任　同　12・3・14

八代　桑野清次郎
就任　昭和12・7・31
退任　同　19・4・15

九代　村田善太郎
就任　昭和19・4・15
退任　同　21・10・31

十代　門屋利統
就任　昭和22・4・6
退任　同　26・4・4

十一代　松井肝太
就任　昭和26・4・24
退任　同　30・4・20

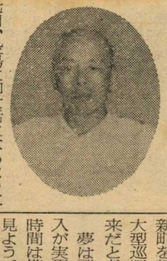
夢を追う

高津久雄　役助

在鮮三年、人生の大半を外地で暮して来た現在の自分には違和感しないような気持が漂っている。女は一生の中一度でもよい、命がけの恋がして見たいと願い、男は一生の中に一度でもよい、胸のすくような仕事がして見たいと思うものだそうだ。

五十四才を迎え、なお夢を追う所以かも知れぬ。

昭和二十二年七月、役場に御世話になるようになってから既に八ケ年、門屋、松井、倉石と三代の村長さんにつかえて来た。



green clear and reading のスローガンを目指して農業会館の建設、直営診療所の開設、公民分館の設置普及、幹線道路の改修バスの導入、造林事業の着手等々方城村政の数十年の歩みは、全く目まぐるしい程の発展振りであった。

全国優良公民館としての表彰の名誉を担い、又全国優良村としての全国表彰の光栄がそれを充分に証明した。町制実施を契機として初代町長倉石文夫さんの腕中には次ぎ〳〵の発展計画が伺われる。

先ず、福智山系に連る、約四百余町歩の造林実施による向百年の資源造成が、此処三、四年間の中に完成されようとしている。従来村民の誰もが考えて来たことで、誰もが容易に実現し得なかった大事業である。それが今押し進められ始めたのだ。又、生産を誇る町としての特産品の造出に一役と云うことから県農業試験場の分場を当町内に是非誘致実現をはかりたいと努力されているとだ。幸い実現すれば当町の産業面に大きい効果をもたらすことは必定であろう。幹線道路の完成により、飯塚、方城間運行バスの役場前への乗入れ実現は勿論のこと、県道、直方・伊加里線の改修施に伴い、後藤寺、夏吉、役場、弁城新町を経て金田、宮床、後藤寺の大型巡回バス運行の実現も近き将来だと考えたい。

夢は飛躍するが、筑豊電鉄の導入が実現すれば、福岡市への所要時間は僅か一時間足らずに短縮を見よう。夕方から家族づれで一寸博多迄と気軽に出かける時の来ることも考えてよい。三菱方城炭業所の煙突のけむりもまた〳〵続くことであろう。樹海をなす四百余町歩の山林より搬出される木材を資源としての大工場の実現も現実の問題として町民を喜ばせる時期が必ず来ると期待される。吾等は方城町の将来に、限りなき発展の夢を持ちつゝそして、それを倉石初代町長の手腕に期待し、且、其の御健在を祈るや切である。

町制施行に際して

教育長　荒木良和

一寒村に過ぎなかった村から町へ。世はあげて原子力時代となった今日、世界情勢の進展に後れず躍進に躍進を続けつゝある方城町の誕生を迎え衷心感激と喜びに堪えない。

社会の形成は、人によってつくられ、人は教育によってのみ完成される。

方城町今日の隆盛は、過去の村民の協力によって形成されたのであり、当時の為政者教育者に対し深甚の敬意と感謝を捧げたい。

過去の教育についても今日の教育についても、官僚統制とか民主教育は放任教育であるとか、とかくの批判を受け静かに反省すべき時であると思う。

町つくりから、人つくりは教育からと云われ、個人の完成が重要であることは勿論である。古から文字通り我田引水の封建性から脱却し、文化方城町にふさわしい社会性豊かな文化人の育成に力を注ぐ可きだと思う。

特に次代を背負って立つ青少年の指導如何は、かゝって将来の方城町の興隆に影響することを考えれば、職責の重大さを痛感すると共に、将来の完成された理形成教育に努力精進を念願し、町制施行のお喜びを申し上げます。

方城町の躍進を期す

方城町役場
町長　倉石文夫
助役　高津久雄
収入役　太田正禧
外職員一同

方城町議会
議長　長尾豊作
副〃　松田直
外議員一同

方城町教育委員会
委員長　村田善太郎
副〃　田辺雅雄
教育長　荒木良和
外職員一同

方城町公民館
館長　倉石文夫
運営審議会委員
山本保
荒田雅治
井下岩永
野久雄
石三稲岩
崎富きみの
渡一
長尾豊作
松本兼夫
原田秀次郎
白石照生
赤井正文
福田耕
倉石清治
茅野熊太郎
外分館長一同

農業委員会
会長　倉石清治
副会長　荒木良和
外委員一同

座談会

長老、大いに語る

方城の今と昔

方城村が「方城町」になるに当って、長老の方々から、大いに昔話を聞かしてもらい、そしてまた、明日の方城の夢も語ろう。と、去る七月十七日、午前十時、公民館日本間におあつまりをねがった。【写真は座談会風景】

◇伊方の地名

（教育長）仲哀帝の御代に、熊襲征伐の折、この地の民が弓矢が非常に上手だったので、「射方」というようになった。とありますが、はっきりした証拠はありません。

◇弁城の地名

（永末）五百年ほど昔、水野新九郎という人が城を築き、弁地大を祀って「弁天城」と呼び、これが略されて「弁城」という地名になった。又、矢城と併せて矢城城していたので、併城と呼んでいたのが、訛って「ベン城」となったという説もあります。

◇方城村の起り

（香月）昔、畑村、伊方村、弁城村より成っていたが、明治23年、伊方村の「方」と、弁城村の「城」を採って、「方城村」と改称した。以後、大字伊方と、大字弁城との二つになった。

◇方城炭坑の起り

（村田）明治28年頃、広瀬武彦氏より、三菱鮫田炭坑長が買収後に三菱合資会社が譲受け、明治35年頃、第一第二竪坑工事が始められた。

◇学校の起り

（光井）明治七年に、上等、下等の小学校を編成し、伊方校と呼び正蓮寺が仮校舎でした。明治九年、萩原に、畑、伊方、弁城村の合併校舎が建てられた。同日年には、伊方、センダン橋に校舎新築、20年には、46坪の校舎が新築された。それでも、生徒はぜんぶで百二十二人でした。

◇産業の今昔その他

（長尾）昔、萩ケ原周辺は、うっそうたる松林だったが、方城炭坑の拡張に伴って、社宅建築のため開墾され、今のように開けた。

（香月）日高さんがやめたあと、私が農働の再建を負わされたが、倒れた直後の事とて、一銭もあすけるんがなくて困った。この整理には二年かかりました。

（長尾）学校のことでは、方城炭坑の熊井工作課長は本当によくしてくれた。資材や職人さんの面で陰ながらしてくれた。

（香月）余りよく言わない人もいる。何といっても、矢張り日高さんは方城の為には深い恩者だ。

（光井）よく聞かれるが、町になって税金が高くなるようなことはありませんか。

（助役）事態が発展すれば別ですが、特に変りはありません。

（村田）町になるのが名前だけでは仕方がない。大いに実力を発揮してもらいたい。

（助役）昨年九月、村長が自ら林野庁にのりこみ、植林の指定をとりに行って来た。大計画の実行期として、今年は、全村挙げて植林をしてもらいたい。十年、二十年の先には、数億円の財産ができるわけです。その他、県の高地試験場の誘致や、筑豊電鉄の引込み、西鉄バスの導入など、そして、これに伴う住宅地帯の建設、諸産業の育成など、村長の大きなスケールで、鋭意進められつつあります。

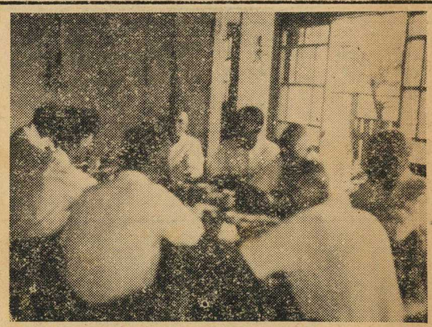
（香月）二方城町ということでなく、国全体の動きとにらみ合せて、今後堂々と他の町の先鋒に立ってリードしていってもらいたい。

（長尾）昔を考えれば開けたもんですなあ。バスなどといっていては、おくれてしまう。ヘリコプターぐらい言っておかんと。（笑）

（村長）高冷地試験場の誘致は、いっしょうけんめいやっています。丁度県から見にきた時、子供や年寄りが、会うたびにあいさつをしたといって、大変好感を抱いて帰った。これが出来れば、年間数百万円は地元をうるおすでしょう。

（香月）二方城町の出来ることは、農業政策、道路の拡充、誠は教育施設の充実等、その他全部門にわたって、画期的事業の推進を祈って止みません。

（村長）本日は誠に有難う御座居ました。



出席者

香月　春太郎　元産業組合長
村田　善太郎　元村長現教育委員長
永末　作平　元産業組合理事
長尾　菊治　元助役元村会議長
光井　力太郎　元農会副会長元教員
松井　肝太氏欠　村長、助役、教育長
公民館―安部、永末

方城町の明日を思う

作　豊尾長長尾議会町

八月一日を以て、我が方城村も方城町となって、発足することになった。誠に村民として、祝福の極みである。

萩ケ原の櫨（ハゼ）畑の真中に役場があった。やがて、方城炭坑にかわる一大宝庫と化すことは、火を見るよりも明かなことである。我々の記憶に新しい。

学校も、今の方城炭坑の二区の鍛冶屋の中にあり、町として、人が方城村の一棟あるのみであった。

その後、方城炭坑の一大発展の恩恵に浴し、八幡町や、村内全般凡ゆる部面に至りても、実に思いもよらぬ変り方である。

石炭の埋蔵量は限りあるものであるとか、今後幾年、方城炭坑があるものであろうか。我々町民として、無限の資源を見出し、全町民挙げて全生かそうではないか。

弁城山、畑の山野、伊方、古門の六自町歩の山は、今、牧草地或は雑草地である。やがて、方城炭坑にかわる一大宝庫と化すことは、火を見るよりも明かなことである。

尚、益田開拓の余地幾ヘ町歩とある。村長は植林事業に尽瘁し、議会も呼応して水源かん養林、県行造林千町歩を新植し、本年も自町歩計画して居るのである。山野一帯、その色を更え、町として、人づくり、家づくり、町づくりを、心機一転して、始めねばなるまい。

方城町、百年の大計を想念してやまないものである。

教育方城町を

方城町教育委員会
委員長　村田善太郎

「教育」こそ、方城町建設の計のために、最も力を致さねばならない根幹問題である。学校教育、社会教育、施設面にわたって、全町挙げて、誤ったことを丸となり、今後、たとえその団結が、ちっぱなりの手段であっても、我々の団結が、ちっぱなりの手段であっても、我々の団結が、ちっぱなりの手段であっても、我々の